

授業評価 2014 (後期) T1P: 工学部デザイン学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.73(2015-03-11) by Yas

2014 年度後期 工学部デザイン学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1P006001	デザイン造形実習 II	1 年後期火曜 4,5 限	田内 隆利他	T1P 1
T1P008001	統合デザイン実習 III	1 年後期金曜 4,5 限	原 寛道	T1P 2
T1P020001	トランスポートデザイン II	2 年後期金曜 3 限 / 2 年後期金曜 4 限前半	(小山 文三)	T1P 3
T1P022001	コミュニケーションデザイン II	2 年後期水曜 4 限後半 / 2 年後期水曜 5 限	桐谷 佳恵他	T1P 4
T1P023001	デザイン科学演習 II	2 年後期金曜 1 限後半 / 2 年後期金曜 2 限	岩永 光一他	T1P 5
T1P025001	ヒューマンインタフェース論	2 年後期火曜 3 限	岩永 光一他	T1P 6
T1P026001	デザイン材料	2 年後期水曜 2 限	寺内 文雄	T1P 7
T1P027001	デザイン文化論	2 年後期火曜 2 限	植田 憲	T1P 8
T1P028001	プログラミング演習 I	2 年後期金曜 4 限後半 / 2 年後期金曜 5 限	石橋 圭太	T1P 9
T1P029001	平面デザイン造形	2 年後期月曜 1 限後半 / 2 年後期月曜 2 限	田内 隆利他	T1P 10
T1P041001	トランスポートデザイン IV	3 年後期金曜 4 限後半 / 3 年後期金曜 5 限	林 孝一	T1P 11
T1P043001	コミュニケーションデザイン IV	3 年後期水曜 3 限 / 3 年後期水曜 4 限前半	桐谷 佳恵他	T1P 12
T1P044001	デザイン科学演習 IV	3 年後期月曜 1 限後半 / 3 年後期月曜 2 限	岩永 光一他	T1P 13
T1P045001	生活行動の心理学	3 年後期火曜 2 限	桐谷 佳恵	T1P 14

授業科目名 : デザイン造形実習 II  
担当教員 : 田内 隆利, 今泉 博子  
年次・開講時限: 1 年後期火曜 4,5 限  
授業コード : T1P006001  
授業アンケート: 回答者数 34 人 / 受講者数 77 人 (回収率 44%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 31 件)

回答が、はい (51.6%) ややそういえる (32.3%) と、多くの学生に伝わったようで一安心しました。良い形とは何か、立体をどう把握していくかという、これまで考えたことがあまりないような内容を伝えるにあたり、これからもさまざまな工夫をしていきたいと考えています。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 32 件)

はい (63.6%) ややそういえる (28.1%) と、多くの学生が授業に満足したということであれしく思う一方、紙立体制作の授業では、立体把握のために自ら 3DCAD を使用する学生が多く、こちらの意図していた本単位の習得要素から少し外れてしまったようにも思います。満足度は保ちつつ、来年度は鍛えるべき部分をもっと鍛えられる授業にしていきたいと思います。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。 (回答 3 件)

「デザインというよりアートという感じで、講評がいまいち理解できない。今後この授業の内容をどう活かすかイメージがしにくい。」とのコメントをもらいました。この授業で学んだことは、プロダクト、スペース、グラフィック...ほとんどのデザインに活かせると思います。ものの要素把握とそのバランスをとることは、全てのデザイナーに必要な力です。そのあたりが伝わりきらなかったことを残念に思い、来年度以降は授業のガイダンスで、授業内容が活かされるデザインの事例を伝えていきたいと考えています。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

全体的に高評価をいただき、安心しました。ただ、授業目標として掲げていた、立体把握、平面と立体の行き来ができるスキルの取得については、全ての学生が達成できなかったように思うので、来年度以降、さらに改善を重ねていきたいと思っています。

### 3. その他のコメントや連絡事項

適当に課題を出しても単位は取れるかもしれませんが、最終的にみなさんの価値は、取った単位の数では決まらないということをよく考えてください。自分自身で「自分のこの部分を鍛えるんだ、伸ばすんだ」という意識を持って授業に取り組まないと、時間が無駄になり、達成感を得ることもできません。できるだけみなさんの鍛えたい部分を鍛える手助けをしていくつもりですが、みなさん自身が本気にならなければなにも変わらないので、ぜひ一度よく考えて、この先もがんばってってください。

作成(者): 今泉 博子

授業科目名	: 統合デザイン実習 III
担当教員	: 原 寛道
年次・開講時限	: 1 年後期金曜 4,5 限
授業コード	: T1P008001
授業アンケート	: 回答者数 32 人 / 受講者数 75 人 (回収率 43%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q6. Q5 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 11 件)  
大教室にもかかわらず、備え付けプロジェクターが常に故障だったためだと思われる。  
ポータブルのプロジェクターで対応をしたが限界があった。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか？(回答 29 件)

進度は意図的に速くしている。

デザインワークをする上では常識的な範囲であり、そのスピード感を持って行うことも重要な習得要件である。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 3 件)

レベル差は如実に表れている。

デザインは、明確に善し悪しで判断されるものであるため、評価を曖昧にして安易に満足しないようにしている。

また、デザインはこの領域がすべてではないので、得手不得手を早い段階で明らかにすることも重要である。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

受講生の半数以下のデータに対して全体に対するコメントは不可能であることを前提とし、全体的に大変であったという意見が強かったと思われる。

多くが、時間をかけてゆっくりとやりたいと言うことのようにであるが、授業中に何度も繰り返し伝えた、スピード感を持って作品を作ることに対して、まだ理解ができていないようである。

### 3. その他のコメントや連絡事項

「できない」「才能がない」と嘆く学生達が多いが、その学生達は初めに「後で何とかなる」と思っていた学生達である。

デザインはアートではないので、与えられた状況の中で最大の可能性に挑戦するものである。

後で何とかなるという安易な可能性ではなく、与えられた状況は何か、その状況でどのように向き合えば、最大の可能性を発揮できるか考えるべきである。

授業では、すべて関連して、ステップアップできるようにしているが、後で何とかなると思っている学生は、そのステップアップをサボっているため、最終的に「できない」「才能がない」と、自身に評価を与え、そして、サボっていた自分を反省せずに楽に嘆いている。

どこかの誰かが、気がつかない間に自分に才能を与えてくれるわけではない、地道に賢くステップアップすることで、気がつけば才能は身につくはずだ。

作成(者): 原寛道

授業科目名 : トランスポーションデザイン II  
担当教員 : 小山 文三  
年次・開講時限: 2 年後期金曜 3 限 / 2 年後期金曜 4 限前半  
授業コード : T1P020001  
授業アンケート: 回答者数 4 人 / 受講者数 15 人 (回収率 27%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q8. Q7 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 2 件)

教室に関して、温熱環境が良くない(1 件)、コロコロ教室が変わるのはやめてほしい(1 件)という指摘あり。教室の変更は工学 2 号棟の改修工事で昨年度の 2-202 教室が使えなかったことが一つの原因。皆さんにご迷惑をお掛けしました。変更は大きくは 1 回(17-111 教室から工学系総合研究棟 7F2 会議室へ: 111 の固定式机椅子が授業内容に不適と非常勤の先生から指摘)、その後講義内容に合わせた変更が計 4 回(?1-301 会議室: 表現手法の講義のための持ち込み PC を置ける強度を持った机がある部屋、?2-アトリエ: 現役の開発担当による講演のためアトリエをご要望、?1-工作室: 毎年クレイモデル作業はここで実施、?1-401 教室: 最終発表会のため)でありました。改修工事はそろそろ終了するので来年度は本年度ほど変更は多くないはずですが、しかし演習ということもあり講義内容による教室変更は今後もあり得ます。しっかり伝えるようにしますので、皆さんもしっかりフォローしてください。また温熱環境の不備に関しては特に 1-401 教室、1-工作室は冬季の暖房の効きが悪く、今後改善するよう設備担当にお願いします。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

15 名(含む交換留学生 2 名、研究生聴講 2 名)中 4 名、実質 1 1 名の約 1/3 の回答で回答率がもう少し上がればと思います。今後より積極的にアンケートへの参加をお願いします。

### 3. その他のコメントや連絡事項

デザイン学科の 2、3 年生の 4 本柱のデザイン演習 I~IV (工業デザイン、コミュニケーションデザイン、環境デザイン、トランスポーションデザイン)は、講師は巷のデザイン現場の現役の方で、まさしく日本のデザインの現場に一番近い授業といえます。そのような貴重な場を少しでも効果的にするために、努力しますので協力お願いいたします。

作成(者): 林孝一

授業科目名	: コミュニケーションデザイン II
担当教員	: 桐谷 佳恵, 木村 博之, 兎山 啓一
年次・開講時限	: 2 年後期水曜 4 限後半 / 2 年後期水曜 5 限
授業コード	: T1P022001
授業アンケート	: 回答者数 26 人 / 受講者数 52 人 (回収率 50%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 2 件)

「前半がインフォグラフィックス、後半がサインデザインとなっていたが、あまり両者の違いがわからなかった。連続してやるよりそれぞれ別の期間にやったほうがいいと思った。」「前半後半で似たテーマを 2 回繰返す意味がよくわからなく感じた。特に後半では目指すべき方向性が全く見えず、講評も曖昧さが残ったままで釈然としない印象を受けた。」というご回答を頂いた。同じテーマをくり返したのではなく、「同一テーマ」で展開するという授業形式であった。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

来年度は講師が交代する。頂いたコメントの申し送りをしたい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

シラバスに授業内容は詳細に紹介されている。また、初回授業では全体を通じての説明が 2 人の講師からあるので、わからないことは積極的に質問してほしい。

作成(者): 桐谷佳恵

授業科目名	: デザイン科学演習 II
担当教員	: 岩永 光一, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 石橋 圭太, 崔 庭瑞
年次・開講時限	: 2 年後期金曜 1 限後半 / 2 年後期金曜 2 限
授業コード	: T1P023001
授業アンケート	: 回答者数 27 人 / 受講者数 77 人 (回収率 35%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q6. Q5 の評価が「はい」でない場合, その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 10 件)

2 号棟 6 階アトリエは, 後のほうは, スクリーンおよび黒板がよく見えない席があります。もうすこし, 前の方に座り安い状況を用意するのも大事かと思いました。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

4 分野をまたいだオムニバス形式の演習です。かなり広い範囲をあつかっていますので, 遅刻欠席等しないようにしてください。特に欠席をリカバリーするのは大変だと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

遅刻をすると, 最初の全体説明を聞く時間を逸してしまいますので, 電車等の遅延も見越して早めに教室に来られるように希望します。

作成(者): 石橋圭太

授業科目名	: ヒューマンインタフェース論
担当教員	: 岩永 光一, 石橋 圭太
年次・開講時限	: 2 年後期火曜 3 限
授業コード	: T1P025001
授業アンケート	: 回答者数 17 人 / 受講者数 39 人 (回収率 44%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 17 件)

講義の声の聞きやすさ、スライド等の見やすさ、教室の環境等についての評価は良好であった。また、例題、レポート、進度についてもおおむね良好な評価であった。これらから、授業そのものは大きな改善は必要ないと考えている。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 17 件)

「いいえ」と答えた学生が 10 名であった。自発的な質問は少ないので、それに代わるコミュニケーションの方法を導入する必要があると考えている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業の内容について、最新の情報も取り入れながら更新していく必要があると考えている。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 岩永光一

授業科目名	: デザイン材料
担当教員	: 寺内 文雄
年次・開講時限	: 2 年後期水曜 2 限
授業コード	: T1P026001
授業アンケート	: 回答者数 27 人 / 受講者数 71 人 (回収率 38%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 25 件)

「はい」と回答した割合は 64 % , ややそういえると回答した割合は 24 % であった。これらを合わせると 9 割近くになるものの、まだまだ改善の余地があると考ええる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 25 件)

「はい」と回答した割合は 40 % , ややそういえると回答した割合は 48 % であった。これらを合わせると 9 割近くになるものの、十分に理解できてる人が半数以下であることから改善の余地があると考えている。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。 (回答 1 件)

課題の内容があいまいすぎるという意見があった。しかしながら、それは自ら考えることを必要とする課題であるためである。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

例え話やレポートが授業内容の理解を助けていることが確認できた。最終試験結果には大きな差がないものの、課題の質に大きな開きがあった点が問題と考える。熱心に取り組む学生とそうでない学生の間に大きな差があり、熱心に取り組めない学生の割合が例年よりも多かったように感じている。次年度以降改善すべき点である。

### 3. その他のコメントや連絡事項

成績評価における課題の割合は少なくない。今年度は真剣に取り組んだ人の割合が例年に比較すると低かった。しっかりと課題に取り組むことは、自らの理解を促すことにつながる。真剣に取り組んでほしい。

作成(者): 寺内文雄



授業科目名	: デザイン文化論
担当教員	: 植田 憲
年次・開講時限	: 2年後期火曜 2限
授業コード	: T1P027001
授業アンケート	: 回答者数 10 人 / 受講者数 38 人 (回収率 26%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 9 件)

この設問に回答した学生の半数以上が「内容がよく理解できた」と回答している。また、残りの半数が「やや理解できた」であった。否定的な見解はまったくなかった。文化という目に見えない課題を取り上げている授業としては、比較的良好な結果が得られたものと思われる。今年度は、2~3コマで一つのテーマを構成するように授業を組み立てたが、それがあつた程度功を奏したといえる。今後は、より理解が深まるよう、教材、授業の方法をさらに工夫したい。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 9 件)

授業の際は、できる限り、ディスカッションの機会を設けているつもりであるが、この設問に回答した学生は、総じて、質問が少ないとの傾向を読み取ることができる。それは、学生の特性によるものなのか、あるいは、関心を引き出せていないのか判然としないが、授業の各回においても把握されたことである。今後は、より積極的な学びの機会を提供できるよう、少なくとも、ディスカッションの機会には、発言しつつ、意見交換をしつつ、自ら学ぶ姿勢を涵養していきたい。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

今年度は、デザインという課題に対する文化を、より分かりやすく伝えるために、2~3コマで一つのテーマとなるように授業構成を組み立てた。また、授業の終盤では、復習の機会を設け、学生自らに学んだことをまとめ発表する機会を設けた。文化とは、デザインに密接な関連があるものの、目に見えないだけに理解すること、その特質を伝えることは容易ではない。しかしながら、15回の授業を通して、少なくない学生が関心を高め、理解してくれたという実感が得られた。より積極的に学習に取り組めるよう、予習素材・復習素材などを準備して、より授業の充実を図ることで、学生の理解度、積極性は高まっていくものと思われる。

### 3. その他のコメントや連絡事項

積極的に学ぶということは、なかなか難しいと思われる。大学では、その姿勢を培うことで、目に見えないもの、関心をもっているものに、どんどん近づいていけることと思われる。質問をする、ディスカッションをするなど、積極的に学び取る姿勢が重要である。私も、そういった機会を増やしたり、授業の教材を充実させるなど、さらに、魅力的な領域、魅力的な授業にしていきたいと考えている。

作成(者): 植田 憲

授業科目名	: プログラミング演習 I
担当教員	: 石橋 圭太
年次・開講時限	: 2 年後期金曜 4 限後半 / 2 年後期金曜 5 限
授業コード	: T1P028001
授業アンケート	: 回答者数 12 人 / 受講者数 26 人 (回収率 46%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 11 件)

工学部 2 号棟の耐震工事の影響で、工学部 9 号棟 206 室で演習を行った。次年度は例年通り 2 号棟 201 室で行う予定です。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

半期で二つの言語を習得させるため、かなり進捗のはやい演習科目であるが、重要な箇所では落伍者がでないよう復習の時間を設けている。とはいえ欠席をリカバリーするほどの時間は設けていないので、1 回の欠席をリカバリーするのはかなり大変であることを演習のはじめに周知する予定です。

3. その他のコメントや連絡事項

かなり広い内容を扱うため、自宅での復習をしないとかなりの確率で落後してしまいますが、演習を終えた後は、実働モデルの製作や実験装置の製作等を自分でできるようになるので、ぜひチャレンジしてみてください。

作成(者): 石橋圭太

授業科目名	: 平面デザイン造形
担当教員	: 田内 隆利, 清原 明生
年次・開講時限	: 2年後期月曜 1 限後半 / 2年後期月曜 2 限
授業コード	: T1P029001
授業アンケート	: 回答者数 15 人 / 受講者数 43 人 (回収率 35%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 13 件)

教員が学生の机を回りながら、話しかけていたので質問のしやすい環境を提供できていたと思う。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 13 件)

若干不安はあったが、そこそこ理解されていたという結果になり安心した。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 13 件)

不満足と答えた学生がいなかったため、まずは良かったが、年々さらに良くなるように努力したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 田内隆利

授業科目名 : トランスポーターデザイン IV  
担当教員 : 林 孝一  
年次・開講時限: 3 年後期金曜 4 限後半 / 3 年後期金曜 5 限  
授業コード : T1P041001  
授業アンケート: 回答者数 5 人 / 受講者数 9 人 (回収率 56%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 5 件)

例年、最初のコンセプト立案に時間が掛り、アイデア展開(スケッチ)、モデル製作にシワ寄せが来る傾向にありますが、本年度は特に講師が途中 2 度の入院で 15 回中 6 回不在ということもあり、例年以上に進捗が遅れ、申し訳ないことをしました。特に、アイデアの絞り込み及び、モデル製作案の決定時期に講師が不在で、十分なアドバイスができなかったことが大きく影響したかと思えます。毎年最初の授業で、課題の進捗スケジュール表を課題内容とともに皆さんに配り説明していますが、今後このスケジュール表をもっと活用し、たとえ講師不在でも、課題への対応レベルが上がるモチベーションの向上を図りたいと思えます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

11 名(含む研究生聴講 2 名)中、5 名、実質 9 名の約半分の回答率ということで、今後更なるアンケートへの積極的な参加をお願いします。

3. その他のコメントや連絡事項

本演習は、3 年生の後期で翌年早々に始まりだす各社インターンシップの参加資格を得るためのポートフォリオ作成時期と重なっており、特に 4 年生卒業で就職しようとする受講生の皆さんは大変かと思えます。しかし、そのような苦しい時こそスキルアップのチャンスであると前向きにとらえられるかどうか、成長の鍵かと思えます。授業としてもより、皆さんの成長に資するよう改善してゆきたいと思えます。

作成(者): 林孝一

授業科目名	: コミュニケーションデザイン IV
担当教員	: 桐谷 佳恵, 玉垣 庸一
年次・開講時限	: 3 年後期水曜 3 限 / 3 年後期水曜 4 限前半
授業コード	: T1P043001
授業アンケート	: 回答者数 16 人 / 受講者数 35 人 (回収率 46%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 5 件)

「おもしろかった」「自分たちが出したデザインのアイデアを実現させるにはどうしたらよいのか学ぶことができた」「グループでの団結力の大切さを知る事が出来ました。前半のポスター制作は、とても楽しかったです。」「多角的な面からアプローチする内容だったのでいろいろとためになった。」「千葉駅ポスターミルという大きなテーマに臨めた点」という回答を頂いた。これを見ると満足度は高いと思われるが、下記を合わせて考えると、授業のボリュームは再考する余地がある。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 5 件)

「内容に対して時間が足りなすぎるのももう少し軽くしてほしい。」「課題がヘビーすぎる」「千葉駅に行く

であれば、現地集合現地解散でも良いのではないかと思いました。そして、駅で話をされる際に、周り騒音を考慮した声量で話してもらえたら... と思いました。後半は、講義と演習の順番を少し変えてもらえれば少し楽だったかなと思います。中間プレゼンの次に最終プレゼンだったり、サインをある程度作ってしまったのにサインの講義を聞く事になる、などをいでもらえた方が、より良いものが出来るのではないかなと感じました。」「平面やグラフィックについて演習する時間が少ない点」「グループの組み方くじがいい」という回答を頂いた。来年度は講師が変更になるので、申し送り事項として伝える。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

グループ構成に不満が出るので、自由回答にもあるように、くじなど公平感のある方式に変更したい。この授業は3年後期なので、基本的な平面構成やグラフィックの演習は行わない。これまで学んだことを活かし、コミュニケーションデザインに多角的に取り組む授業であることを理解してほしい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

上述の通り、この授業ではグラフィックの基本演習は行わない。広義のコミュニケーションデザインをテーマとしている。シラバスを参考に、疑問があれば受講前に質問を。

作成(者): 桐谷佳恵

授業科目名	: デザイン科学演習 IV
担当教員	: 岩永 光一, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 石橋 圭太, 崔 庭瑞
年次・開講時限	: 3 年後期月曜 1 限後半 / 3 年後期月曜 2 限
授業コード	: T1P044001
授業アンケート	: 回答者数 27 人 / 受講者数 61 人 (回収率 44%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 26 件)

本演習授業は各研究室の持ち回りで行うため、スケジュールに関する柔軟性に乏しくなってしまうことがあります。そのため台風で休講になるなどした場合に、期間が開き理解しづらくなる、補講期間に課題が重なるなどの難点がありました。スケジュールリングに関して、受講学生の立場にたってもう少し柔軟に対応できるよう、考えてきます。

Q18. あなたはこの演習・実験・実習科目を受講することによって、対応する講義の理解が深まりましたか? (回答 19 件)

理解度を高めるために、各研究室の最初の回で目標を明確に理解できるように説明をわかりやすくするなど、工夫していきたいと思えます。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

### 3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 下村

授業科目名 : 生活行動の心理学  
担当教員 : 桐谷 佳恵  
年次・開講時限: 3年後期火曜2限  
授業コード : T1P045001  
授業アンケート: 回答者数 17人 / 受講者数 37人 (回収率 46%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 17件)

「はい」が10/17名、「ややそういえる」が8/17名、「どちらともいえない」が2/17名だったので、満足度は高かったと判断できる。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 4件)

「デザインにおける心理を学べてよかった。」「みじかなはなしだった; 具体例が多く分かり易かった点。」「『

と霧』を読めたこと。」「興味深い内容が多く、たのしかったです。もっと深く知りたいと思う事が多くあ

ました。時間があれば、もっと講義が聞きたかったです。』という回答を頂いた。上記と合わせて考えても、基本方針の妥当性が伺えた。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 3件)

「板書たいへん」「配布資料についてなのですが、ワードファイルのみでなく pdf でものせていただいただけとしいです。自分のパソコンにオフィスが入っていないので、pdf をのせていただくと資料の印刷がスムーズにできるので、検討していただければと思います。」「特になし」という回答を頂いた。シラバス及び初回授業で板書が多いことは説明済である。pdf ではなくワード書類のまま配信したのは、3年後期なので Office でなくても Pages 等文書作成ソフトは各自所有しており、受講生が書類を適宜編集することを考えてのことであった。来年度は注意したい。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

理解度満足度が高かったので、授業目標は概ね達成できたと考える。今年度は、これまでの抜き打ち小テストをやめ、事前に連絡した日時でテストを行った。授業内課題も多く、授業外課題も設定したが、受講生達はよく対応していた。ただ、「もう少し講義が聞きたい」という声もあったので、テーマを厳選し、1つのテーマで内容を濃くした授業も検討したい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

受講生が板書をするスタイルは、今後も続行する。授業は鑑賞するものでもないし、受講生は聴衆ではないと考えているので。

作成(者): 桐谷佳恵